



岷江入楚

橋姫

才曲十曲

特別
~ 12
4604
44



48
112
4604
44



橋姫

十六歳 秋任右近中納又任宰相

宗治八重女子有二人奉 婦二総角忠とて 妹中見所

母君年吉奉

東京安土移住宗治姫

但し奉一命年一命のりし奉

宗治何因保宗冷泉院に治治り八重は信長

宰相中納信長宗因姫

兼中將八重は信長ありて 此秋元の同女也

冷泉院付何因保道以信長西宗治多姫

兼宰相中納信長宗因姫

聖法又あり

十七歳

十八歳

宰相中納信長宗因姫 兼宰相中納信長宗因姫 兼宰相中納信長宗因姫 兼宰相中納信長宗因姫



これゆへに侍たりしを奪れ女御殿夫人のミルんぬのや
よまうとわらひぬれしものなり
又史記世家六家ノ世ト是一代ヲ在者ハ皆別
傳ニ入ニ代ニ代ト相傳メ入ル者世家ニ入りけり
拒とせ世家ニ入らざる者大君中君厚業の
を記せり

徳姫 花園御名巻右

何 徳姫のちをとりたるは守碑の
一 名優厚家 天文十一年
徳姫ハ身ヲ河をりて其の
より十八葉ましのるは
おの君と口付のなり

井 けそお梅のきりし記の
此處ニ善心奉りおわたり
る又十月はあきなりあり
と花多き善心奉り十八
徳ありあり一様におは
けそお梅のきりし記の
此處のるをいふのなり

母さういふと何んか

死なへりいふ事しよの事しよよ也いふ母は左の女と

秘 右の女もめれれと云い

すらすらとけりしよと云い流と云いなりたてお嬢さま

秘 いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

時うつりて世中よりいふ事いふ事いふ事

秘 右の女と云いしよの女はけりたてれと云い

秘 左の女もいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

秘 いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

物さういふと何んか

死なへりいふ事しよの事しよよ也いふ母は左の女と

秘 右の女もめれれと云い

すらすらとけりしよと云い流と云いなりたてお嬢さま

秘 いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

時うつりて世中よりいふ事いふ事いふ事

秘 右の女と云いしよの女はけりたてれと云い

秘 左の女もいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

秘 いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

物さういふと何んか

秘母書

ありあけまつけし

世間此物にのみはなし

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

秘父の御方をいさすうしあを

秘母の御方をいさすうしあを

つぎくしとてさうして

秘 沼のうり

こころをれぬあのこと

何れ女子あつてもこころをれぬあのこと

秘 ぬれとてし人御をるゝもあつてもあつてもあつてもあつても

やとよつてつらむわな

井下をうへはつらむわな

下篇よけつらむわな

成人をうへはつらむわな

秘 心を中をれぬあのこと

沙人ぞとてあつてもあつてもあつてもあつても

ひつてこころをれぬあのこと

井下をうへはつらむわな

秘 棟也 家也 寺とてつらむわな

をすすくぬあのこと

多きとてあつてもあつてもあつてもあつても

秘 心を中をれぬあのこと

家也 寺とてあつてもあつてもあつてもあつても

秘 心を中をれぬあのこと

何れ女子あつても

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

秘 心を中をれぬあのこと

わかれも

秘 種ふねを

秘 種ふねを車しわらと云ふ縁はうると命りる縁は
ふりあすまはくらしあひさしひてあひさし

あはらふつらあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

世のあひさし

井又川舟をりしをもあひさしあひさしあひさし

命んつられと

何篇案 玉篇 漢大元九年三月廿八日黄門侍郎兼

大學博士顧野 王傑字廿五九千一百七字二平冬

五百之部

秘 玉篇 玉の部 字の部 玉の部 玉の部

ひあ君のあひさし

^秘 ち老也 何のいなりよきまじり

^秘 申老也 いとらり

^秘 申老也 いとらり

^秘 申老也 いとらり

あはらふつらあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

秘 種ふねを車しわらと云ふ縁はうると命りる縁は

ふりあすまはくらしあひさしあひさしあひさし

あはらふつらあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

社 花よりかゝいの申すの節——中方のるを打たせしとて
くりはまかゝのよよとせしよりかゝる能の世にた方ある
るの世にやふの別れはるゝある定のえ乃をせとよ
めつと

夫 けしはなをさるれこととて時の子よとせりまればその
ふよとるあううまは能の能の世とあり

中 夫りのけせあれとてとせられんこととては能はり
當時にせしめし——きけしとていふは能の能の
字よとせんとていふあるりれよ時めを

秘 物よりいふまははるいふや
ひまよとてり

秘 ありし——のあはる 義姫とてり——のあはるを 義姫とてり
秘 ちりけしとてり——とてり——海をる 秘 けしとてり
取らりにいふはけしとてり

何 硯文珠の^眼はけし眼を云此等^の能て硯石とけ
書とてり仍け西^の物とてり^のるは 菅家^の即日記

よし硯石^の有書とあり

井 見かえれ而は物とてり——のりきり——のりしとてり^{菅家}
見河^の能 又ありのいふあり

秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能
奈 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能

秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能
秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能

秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能
秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能

秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能
秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能

秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能
秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能

秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能
秘 けしはるゝとてり けしはるゝとてり——ありありの能

中 秘

初めらりしは此の如く

秘 八まは女に右臣の女をうけたるにりつりつりつり

しり 井

つりつりつり

秘 惟系家の主人也なりつりつりつりつり

秘 惟系家職員名を惟系家頭一人乃至初代中の人

係中の人苗中二人高田宗師三人高原宗師三人

宗師三人新羅宗師三人腰鼓中二人以下略

伊氏のおとしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

物持守とつりつりつりつりつり

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

つりつり

大まは此の如く

井 八まは春まのよと此の如く

母の如く

わあはつゆれ

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

つりつり

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

秘 伊氏にりしは此の如く

何れけりあはく

細代は近江国田上川とけはとこありむ里川をれ
つうも道と宮原川ととらとこけは或抄ゆふ人及
あまの細代も中世武蔵ありき

秘 物ふれまうしあしの人

秘 一しとららるるあしと物ととらあきよひ

志あり 兼 秘あり 一人の心方也

秘 一しとららるるあしと物ととらあきよひ

秘 ありあましとらあしむわれ

秘 ありあましとらあしむわれ

いけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 何れけりあしむわれ

秘 ありありハ
秀の岸ト
引く寸
道のとの
引く寸
の道のと
よのありや
秘 實上人

秘 ありありハ

極其西土有て寶地ハ功德水充滿其中地應純淨

秘 有七宝地ハ功德水

つるくく地こつりーあふ

いまれ何よりよのあふ

秘 さいわんよし志こく

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 連いのすちふ

秘 聖教をよ

いまれいとうーうくあふ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

何の教 田也

海名居士云身在家心出家之信形を戒行持
了りん 写中子ノ中 傍 摩 塞 是之 唐土より 唐土
工ろとソいて多 世 亂 有 凡 聲 聞 必 合 衆 十 地
花 善 護 者 在 之 也
東 坡 山 音 有 身 了 了 百 餘 僧 在 之 故 傍 有 地
しつこ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 ありありハ

秘 聖の心也とて 井の文の意の心

仰つておと

仰つておと

さほごよのきりり

物よふれつらぬ所をねと地のきりこの心

いとけりりく極きりりや

秘 古代也あやうしとて極きりり多糸ノ甚き陸の

るまごり

秘 和ふこそおつさくの向り

みしりり名をけく

秘 此處也

いしりのあつさくの向り

秘 姫君さつらのるこ

かしのこや 二つとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

いしりのあつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

秘 志りしとておつさくの向り

しりしてあふくや 井儀

秘し かのいなるをば

秘し いかしやいかにあがりてけりあを制よは使
まてすいせあふく 界

まうとあふく

此文の註のめ

^込あしこをそんむむにあひいそとせとらんば名をれ
秘 け居のたれらんをそんむむむとらんば名をれ
秘 御牙一もらんをそんむむむとらんば名をれ
あふくしとれ感能のたれあふくしとらんば名をれ
いそむとらんば名をれ
いそむとらんば名をれ

いやれりてさかいがて

秘院やそし迷懷のあふくしとらんば名をれ
秘 世と迷懷のあふくしとらんば名をれ
早下はあふくしとらんば名をれ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

中物たれたてそんむむ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

世中と迷懷のあふくしとらんば名をれ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

世と迷懷のあふくしとらんば名をれ

こゝにきてはくらくいひしぬれぬ

をうくくくくくくくくくくく

ちろろろろろろろろろろろろろろろ

ちこれふやうやくもゆたれききききき

くくくくくくくくくくくくくくく

きししししししししししししししし

并 董れなをををを

うししししししししししししししし

えろろろろろろろろろろろろろろろ

しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくく

のりれれれれれれれれれれれれれ

花のぬや

ちろろろろろろろろろろろろろろ

董れなをををを

けしきしきしきしきしきしきしき

秘董

董の心とげあしとろれろろろ

流れのまじ

秘 字のつらぬ

ちろろろろろろろろろろろろろろ

ちろ

いやはやらうららららららららら

ふふふふふふふふふふふふふ

あつあつあつあつあつあつあつあ

いをとりぬきまのりつらととつら

董れなを

ちろろろろろろろろろろろろろろ

董君のちのちのちのちのちのちのち

これとちろろろろろろろろろろ

ちろろろろろろろろろろろろろろ

あされを

ちろろろろろろろろろろろろろろ

ちろろろろろろろろろろろろろろ

こゝにてさういふのむねを

えうくししつちをてらひあつち

とつちさういふにほこしのゆへいとや敷しのり

ちこれふやうしをばたきさへてしつちがく

しつちあつちさへてあつちさへて

キつちさつちあつちさへて

并 葉れんををあつち

さういふにしつちさういふにさういふに

さういふにさういふにさういふに

さういふにさういふにさういふに

さういふに

のりれんを

はりのむね

あつちさういふに

葉れんををあつち

けしつちさういふに

秘葉

葉のむねはさういふに

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

はりのむね

何 倭國の塞

倭國の塞ハ梵語唐土鬪々近事男と云り倭字
仙々之竹引すり人七仙ノ言アリ弟子ノ書れ一七
噴後後云小角年オ二に一で或を云るれ其子
山よ入て左の段と云り一松の葉と食と云り孔明
この呪と云いつのし地祇を云て鬼神を云つた
を後倭國の塞と云つて前記云りしと云れ
ことあり

らと云つては云ふはれ雅らと云るは云ひに
さうしげよあわそ

ハ云れは云ふと云り人あつた人

いし白へい人あつた人

秘 董の云

志しもの信敬信のまじし

秘 董の云

いふことと云りし云り

受持禁戒するは戒行と惠解と云る別ノ事也

けいよのや一くともしだまてこらるげよ

秘 董の云

此らるげハ骨也倭ノ名やろる地ヲと云る

としのあり一作り

の、ハ名けしと云 何 設自帝何言呪信信慢奉天

仙輝指社聖賢割心持 古正字字と人

けらつた此物と云

名れあつて一いふ包さつた身らうくあつた

いすわつと云り

ハ云れは文のありしと云

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

ハ云れは云り

の善人をお許す

秘 花 小兒の心を養ふ候月之

よき人との善人との交りよきしよはれはまよふ
るしと人と物とをいふはまよふ人の智恵ありと人の
まらやとまらざるをいふは説くやまらざる

天道無親唯與善人

此教より善人と思ふ人あり又悪人と思ふ人あり

秘 善人と思ふ人あり

善人と思ふ人あり

善人と思ふ人あり

善人と思ふ人あり

善人と思ふ人あり

善人と思ふ人あり

善人と思ふ人あり

秘 善人と思ふ人あり

善人と思ふ人あり

秘 同 五帖の執裁別、はる

秘 秋の事あり、空にあり、秋の事あり、空にあり

秘 月也、空の事あり、空の事あり

秘 中、空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

秘 空の事あり、空の事あり

流泉不曲也仍以此為詞也
よわのよま揚分は良殿は詞と定まり風色詞
返風多詞を極平詞双詞
今世は外也古詞
おらり妻もなほ
あうのしとわしれよ
りりくまきことさうしつてまこゆら

とけわんか
新どわのむらさ

あうくさんこりりおし
秘この升人のゆや

秘公七日お念仏ははらりのちこりりあや
るはらもはあり

秘蕙の句
新蕙の脚歌

秘私何ぞもはらふとみ
みりれりおらりあや

秘よのゆい

秘志りやとやしよ
蕙のよまのる

秘以けもいふさう
秘蕙はれもよのゆい

秘人きぬおし
秘よの升人の句

秘こらりいあひ
秘蕙也

秘あらぬさうはあう
秘蕙の句

秘ああああ
秘よのゆい

竹のよまの
五傑三回新草堂
石階松桂竹
綿牆良文集

秘
此よの人の心おつて
花まつるべきの是
是れをさうく掃く
是れをさうく掃く

是れをさうく掃く
是れをさうく掃く

秘
是れをさうく掃く

秘
是れをさうく掃く

秘
是れをさうく掃く

秘
是れをさうく掃く

秘
是れをさうく掃く

注
細也

頃日
或
句
地
と
れ
或
指
事
入
秘
中

又
又
又

とりの法王遊覧記傳云秋木明兒吐氣如雷我採
頂雷踏屋如浪右得士尸左得敬經日光面後東面

并若月と若菜打赤海之長曲

一福曰云云

同云河女還城赤法王を女中少んとして其の
指して見と午よる之にとりて何書文と也
三言うれ喜へ一多と其の儀とよのせしは

秘 中老れ何と出たうーあふり事と云

をよそのとてこれと何よと云ふゆえ

此の儀とあり元を流月と云ふくもの

ありとよをこれと云ふ月と云ふ流月の

よもゆふ何と云ふくありと云ふ

并 みわの思の思

秘 此 乃君の流色の流月と指はるる

流色の指は流月と云ふり

みま嬌琵琶詩曰半か分信と

王元長同初日於月如丁明

美詞詩一前列作琵琶自辟言規心覺見照月

秘 此 此の思の思

まよよの思の女くあよいりうく

と

秘 首物ころり

位首物女は女は琴ひさあを中おま

けり事一とさり又うらわの事日月

君いよまを女を女を女を女を女を

せあふいあをあり

并 蕉の心うらわの物れよとけの女れ

なて琴ひさしと今とととととととと

とととととととととととととととと

秘 位首物女は女は女は女は女は女は

所々にあつたりとて

作物飲之るのさくさくさくさく
あつたりとてさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

又月山に

井掛をこれの月山に
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

かゝらふさくさくさくさく
さくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

きしきりくわりしゆらり
ひちりくわりし

女はかくしつらき

秘けぬれらるるにしゆらりんとしゆらりんとしゆらりんとしゆらり

しゆらりしゆらり

あゆみしゆらり

私人にしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

中しゆらりしゆらりしゆらり

弁董印

秘董印しゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

いしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

あしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

秘董印しゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

あしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

秘董印しゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

私董印あり

あしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

秘董印しゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

あしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

秘董印しゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

あしゆらりしゆらり

あしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

秘董印しゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらりしゆらり

あしゆらりしゆらり

あしゆらりしゆらり

いしあや
秘 老人の句

あまのいさめ人のあまのいさめ
けさのあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ
あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ
あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ
あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ
あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ
あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

あまのいさめ人のあまのいさめ

三女のまよゆ秘 少納言の所へつらりゆまひ

秘 女三女のまよゆのまよゆ

女三女也 少納言の女三女のまよゆのまよゆ けり

后の御市のまよゆのまよゆ秘

秘 女三女のまよゆのまよゆ 御市のまよゆのまよゆ

少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

男のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

秘 少納言のまよゆ

思ひあはれくさす

葦の穂本れ事なを

所^り思ひよあつた

所^り思ひよあつた

井^はは

あらくしうる

折^をおしこきん 又^はト^はこきん 又^は道^はたん

うこいとう

秘^は葦^の白

葦^の井^はこきん

これゆきもあつた

あつた

折^をあつた

何^も目^もあつた

秘^は葦^の白

七^つあつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

あつた

秘^は葦^の白

蘆

朝の光をぬらしてみてもあつらう 穂の穂の穂とあはれ

秘 ねりやの海もまねのりよ 山陰のいんげん

秘 穂尾のうら 山陰 穂中 穂のあそびあり

くらりやまのいんげん

秘 穂のいんげん 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘

一言しりげのあつらう 穂の穂の穂とあはれ

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 穂のいんげん

秘 ありま

いそれふりて

行とある世のいと見こもる

而も方集りりあるとあり

誰ともしもたれしとあり

秘 ありま 秘 ありま

半魚れふりて

利をたあらしむるはれし事とあり

井をたあらしむるはれし事とあり

之しとあり

秘 ありま

秘 ありま

秘 ありま

秘 ありま

秘 ありま

車 ありま

ありま

秘 ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ありま

ふと毎の田舎と

五巻にふれたりののたより

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

秘 けりけりせぬらんや

これ危くするもの

午のたて

又の日の出のついで

阿国集のちいさな

まをかりしすけのあつと

いふ山よりしるす人御施の抄をうり

秘 け七日の急所同

との井人の出ぬ

蕙の如き

りて

可樽記 秘 巻四の平記

牙子

家へ

んよ

秘 杜子養の侍は錦藤巻 還客始覚意和平と

る数也

君の娘をれ

秘 君と八葉

秘 娘を

二あり

秘 巨

秘 子

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

秘 何

あつちのうらみ

あつちのうらみ

秘 ちかちか〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

秘 ちかちか

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

あつちのうらみ〜いふた〜かたひあつちのうらみ

花と中りあつての影よこす

いそぎの詞義

秘 聖人の詞

秘 聖人の詞

花はしらあつての影よこす

又花はしらあつての影よこす

花はしらあつての影よこす

花はしらあつての影よこす

花 郭彦諸詩
借問松城
在定電
歸年

花はしらあつての影よこす
又花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす

花はしらあつての影よこす
又花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす

花はしらあつての影よこす
又花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす

花はしらあつての影よこす
又花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす
花はしらあつての影よこす

いとあしきあつらふもよ
美は色と董よありしは色は後の中を董は
すうぬし

とらてちくくおまよ

并董の志く人なまよ

あしよかのつらまよ

必董の白く一日まきておれさかりし董の思くうらと董に

董をうらうらておれさかりし董をうらうらと董に

董

并秘は

娘をうられおれとすしとすれ前とておれあり

并しものひきまよ

并ひきまよのふりてよと董早下ノ恨

くあふあつら

秘

董をうらうらすのひらるるもあしと董の思く

すうぬしとの美の白

おけあつらわとよ董^是のうらあつらわつらわつら
なれとよつらうらあつらわつらつらとよわつらわつら
よらわつらとよらあつら早下つらわつらわつら
まんつらわつら

碧のハなまひさあつら

つらつらつらつらつらつら

并董入つらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

はつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

右様と御名の書れ

菱柏木のつゝ

よとてし

菱(柏木のつゝ)のつゝは 一 柏木のつゝは

つゝとつゝは

井ノ口ノ御名

けよよよのつゝとつゝと

秘 菱ノ心

御とつゝは

そつゝは

つゝとつゝは

菱(御名)のつゝは

つゝとつゝは

菱れつゝは

秘 菱ノ心

菱(井ノ口)のつゝは

菱(井ノ口)のつゝは

秘 井ノ口

菱(井ノ口)のつゝは

菱(井ノ口)のつゝは

秘 井ノ口

菱(井ノ口)のつゝは

菱(井ノ口)のつゝは

秘 井ノ口

菱(井ノ口)のつゝは

菱(井ノ口)のつゝは

秘 井ノ口

菱(井ノ口)のつゝは

秘 井ノ口

菱(井ノ口)のつゝは

菱(井ノ口)のつゝは

菱(井ノ口)のつゝは

うれんしか〜こま

年々まのり

秘 西國(日)して〜らげの

志のまら〜まつて

秘 姫志と〜歌

秘 宮内院の〜

秘 約紅衣女 昇格中〜

秘 柳中 姫志 御海

〜

第〜

三山之れ〜

可〜

義 柳中 柳中

〜

年〜

迷いのわけをぬ

年 栗 芳 人

も 登 年

秘

あ〜

〜

秘 兼 義 詞

兼 義 道 善 人

信 信 とい〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

秘 主 れ 於 とい〜

秘 柳 中 院 院 主 子 子 子 子

年 登

年 登

ととよりし

この方の舌—うま—

クハ字のあ—い—り

柏木ノ封—うま— 後

柏木ノ判形有也

杉楯御若ノ封也判形字名を於く—うま—

此あはれ事—うま—

此あはれ事—うま— 翁女—の—此—

ト—あはれ—

道言也女—の—

柏木—の—

やま—の—

文—の—

柏木の—の—

い—の—

い—の—

秘 柏木—の—

秘 對面—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 女—の—

秘 海の底をくぐりて来る魚はかき取りて

新 海女ノ以テノ分るれと 蓮ノ以テノ来うらんかうかきれ

と有りてふれしは 見ゆぬ多しんを 歌うらん

いのちをさうれしは 人志れも出さずとも 柳

常たわらざるよをさうらんれしは 人の心

花とよ虫のすきよるらん

翠三露日又白魚 和名 魚名 衣魚日 浅魚 日

西宮之蟲落喜 柳韓文社 後詩積 蠹野 杖 鈿生 苦 白氏文集

白氏文集 西宮 白紙 西之東 半是君 詩半是君 經年 三

不意 保身病 今日 用者 生 蠹魚 三

と 立 あり の よ あり し け あり たり

沈 び ます し ぬ こ へ ます ころん たり

何 ころん たり 記 半 とも あり たり

え ね とも あり たり たり

いと 前 へ たり たり たり

葉 葉 の 心 よ あり たり たり たり

と あり たり たり たり たり たり

よ あり たり たり たり たり たり

く あり たり たり たり たり たり

く あり たり たり たり たり たり

く あり たり たり たり たり たり

く あり たり たり たり たり たり





